

「PATENT ATTORNEY」は
「弁理士」のことです。

PATENT Attorney

パテント・アトニー

弁理士ジョージの相談室

Q & A

ジョージ先生、お久しぶりです。建物の外観デザインも意匠登録できるようになったと聞いたのですが。

その通りです。この4月から改正意匠法が施行され、建物の外観デザインも意匠登録できるようになりました。

うちのケーキ屋さん、お店の名前だけでなく、建物の外観デザインも模倣されて大変な目に遭ったこともあるので(※)、それはいいわね。今からでもお店の外観デザインは意匠登録されるかしら。

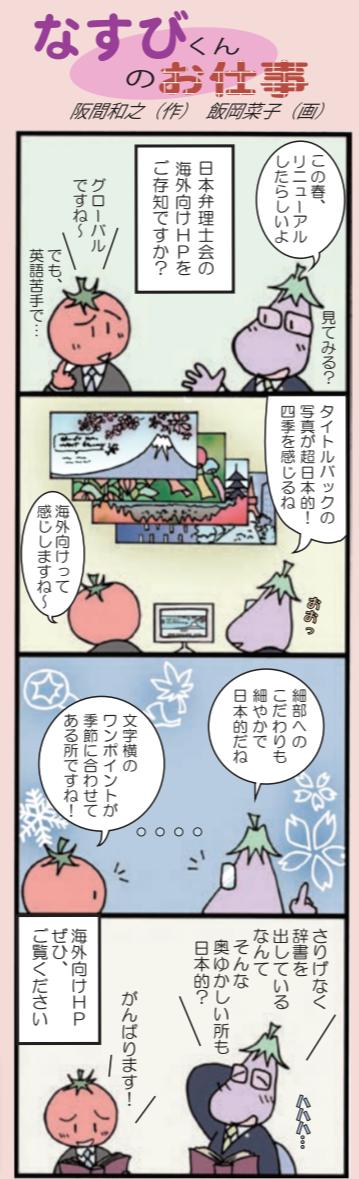
新しい制度とはいっても、新規性や創作非容易性についても審査されるので、公知の意匠は意匠登録できません。平たく言うと、知られている意匠と同じであったり、類似していたり、または知られている意匠をもとに容易に創作できてしまう場合には意匠登録はできません。ひとみさんのお店の外観デザインは、2年ほど前からあるお店のものですよね。そのため、今のお店の外観デザインの意匠登録は難しいと思います。

そうですか。その制度があのときあったなら、うちのケーキ屋さんの外観デザインも真似されずにすんだかも知れないね。

今回の改正で外観デザインだけでなく、内装デザインも保護の対象となったので、お店のリニューアル等されるときには、ご相談いただければと思います。

はい。そのときは是非よろしくお願ひいたします。

(※)漫画「閃きの番人」第3話参照(<https://www.jpaa.or.jp/comic/>)



日本弁理士会マスコットキャラクター“はっぴょん”

「はっぴょん」は弁理士制度100周年に当たる1999年に誕生しました。?マークが帽子をかぶっているようで面白いでしょう。「はっぴょん」の名前の由来は「アイデアが「はつ」と湧いたら「びょん」と弁理士に相談してね」です。はっぴょんは、私たちの生活に関わる知的財産についてわかりやすく教えてくれます。

特許庁からのお知らせ

地域活性化を支援する皆様
地域団体商標のページをリニューアルしました!!

情報をカテゴリ別に整理し、
アクセスしやすくなりました!

地域活性化に取り組む皆様
地域ブランドの保護は、
地域団体商標制度で

都道府県別、商品別、
キーワードで地域団体
商標の検索が可能!

【地域活性化に取り組む皆様】
地域ブランドの保護は、
地域団体商標制度で

<https://www.dpj.go.jp/region/>

JPA Information

~子供向け特設WEBサイト~
「まなぼう!弁理士キッズ」を公開しました

日本弁理士会は、小・中学生を対象とした特設WEBサイト「まなぼう!弁理士キッズ」を日本弁理士会のWEBサイトで公開しました。「まなぼう!弁理士キッズ」は、小・中学生にも弁理士という職業がわかるよう、弁理士について平易な文で紹介した内容になっています。学校やご家庭での教育にご活用ください。

まなぼう!
弁理士キッズ

<https://www.jpaa.or.jp/kids/>



【ヒット商品はこうして生まれた!】

ヒット商品を支えた知的財産権

持続可能な原料の利用に成功し
革新的な洗浄機能を持つ洗濯洗剤
「アタック ZERO」

- シリーズ特産品(みしまコロッケ)
- 弁理士ジョージの相談室
- 知っておきたい! この技術
- 漫画「なすびくんのお仕事」
- カラー3Dプリンター
- 特許庁からのお知らせ
- 知財TOYBOX
- JPAA Information



アタック ZERO

持続可能な原料に成功し 革新的な洗浄機能を持つ洗濯洗剤

花王株式会社が2019年4月に発売した「アタックZERO」は、同社のロングセラー衣料用洗剤「アタック」を全面リニューアルしたもので、「汚れゼロへ」「ニオイゼロへ」「洗剤残りゼロへ」を目指した「ゼロ洗浄」を最大の特徴とする。発売から1年で出荷総数が1億本を達成するヒット商品となった。

「アタック」ブランドの大型リニューアルの背景には、近年の洗濯機、衣類の素材、ライフスタイルの変化により洗剤に求められる性能も変わったことがある。そこで目指したのがゼロ洗浄技術だ。すでに開発に着手していた革新的な界面活性剤バイオIOSと、纖維改質技術AC-HECの完成により、その実用化第一号としてアタックZEROは世に出た。

洗浄剤で使用する界面活性剤は植物性油脂全体の5%にすぎず、ヤシ油やパーム核油などに含まれる希少な油脂が原料だ。洗浄剤のほか化粧品、食品など広範に利用され、世界的に持続可能な原料への転換が模索されてきた。同社でバイオIOSへの具体的な取り組み

が始まったのは2008年頃。従来は洗浄力の高い界面活性剤は水に溶けにくく、水に溶けやすいものは洗浄力が低いとされていた。原料は親油基の炭素数が12から14が適切で、水に溶けにくい炭素数が多い原料を利用する技術はなかった。手探りで始まった開発は、出口

の見えない状態が数年続いたという。そして試行錯誤の結果、アブラヤシの果肉から食用のパーム油を採取した残りの油脂(固体脂)を原料とし、炭素数16から18の分子形状をコントロールする画期的な技術を生み出したのである。さらに安定した量産技術の確立にも困難があった。界面活性剤はわずかな条件の違いで性質が変わってしまう。工場での実機設備の試運転では、想定や計算通りの能力が出ないという試練もあった。完成までは10年余りの歳月が流れていた。

同社マテリアルサイエンス研究所ではバイオIOSとは別に、2014年からAC-HECの開発に取り組んでいた。こちらが目指したのは、汚れを落としやすく、つまにくくすることだった。近年増えているポリエステルなど化繊の衣料は、皮脂汚れがつきやすい上に水になじみにくい。これ

に対し木綿は皮脂汚れが落ちやすいことから、化繊を木綿に近いものに改質するという発想を得た。ここでも持続可能な原料として、木綿を含む植物の構成成分セルロースが活用されている。基礎研究から約5年で製造にこぎ着けた。

AC-HECの纖維改質機能により、バイオIOSの洗浄能力を効率よく発揮させることができます。そこに至るまでには、もう一つの関門があった。二つの基剤の能力を最大限に引き出すための配合処方の検討である。これを担った同社ハウスホールド研究所では、その他の成分の組み合わせも含めて数千通りの配合を重ね、4年をかけてゼロ洗浄を実現する処方を構築した。アタックZEROは発売から1年を経た2020年5月、新たな消臭テクノロジー「抗菌+（プラス）」を搭載し、さらなる進化を続けている。

同社では長期にわたる開発の当初から知的財産部が参画し、研究員との議論を重ねて多面的に発明を捉えることによって知財戦略を展開している。バイオIOS、AC-HECに関しても広範な特許網を構築して技術とブランドを守っている。



[特許] 第6556318号ほか
[商標登録] 第6225484号
[意匠登録] 第1623621号



地域団体商標登録：第5912295号
商標登録：第5219336号
商標登録：第5380556号



富士山南麓にひろがる静岡県三島市では、三嶋大社や源兵衛川（せせらぎ散歩）など市内を散策する観光客が多く見られます。「この観光客の方たちに、三島特産の三島馬鈴薯

（メークイン）を食べて欲しい」という思いから誕生したのが「みしまコロッケ」です。約10年前に、市民、商店主、生産者や関係団体、三島市が協働で「みしまコロッケの会」を立ち上げ、三島馬鈴薯を使用した「みしまコロッケ」によるまちづくりを推進しています。

三島馬鈴薯は、収穫を手掘りで行い、風乾貯蔵や厳格な品質管理がされていることが特徴です。肌目がきれいで甘みがあり、保存性の高いメークイン種のじゃがいもで、市場でもその品質が高く評価されています。また、三島馬鈴薯は、平成28年10月に、静岡県としては初めて、地理的表示（GI）保護制度に登録されました。この三島馬鈴薯を使用した「みしまコロッケ」は、外はサクッ、中はクリーミーで、甘みが強いのが特徴です。令和2年2

月時点では、みしまコロッケを販売している認定店は909店舗になりました。みしまコロッケが誕生して以来、地域と結びついたPR活動をし続けた結果、平成29年1月に地域団体商標に登録されました。味は各店のオリジナルのため、それぞれに創意工夫したコロッケをお楽しみいただけます。

みしまコロッケの会では、三島市を訪れる人が散策しながら、ちょっと寄り道をして、ご当地グルメ「みしまコロッケ」を気軽に食べられるよう、みしまコロッケの認定店を紹介した「みしまコロッケ帳」を作成しています。三島市に訪れた際には、是非一度ご賞味下さい。



このコーナーに掲載御希望の方は、「特產品」のプロフィール・連絡先を右記までお送りください。Fax 03-3519-2706 Mail panf@jpaa.or.jp

知っておきたい!この技術 トレンドでっく カラー3Dプリンター

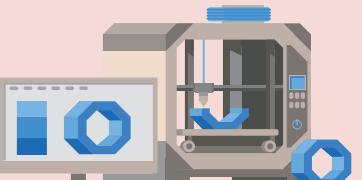
粉末石膏を積層材としたフルカラー3Dプリンターに代わって、樹脂を積層材とするフルカラーの3Dプリンターが次々に開発され、注目されている。樹脂素材でフルカラーの造形物をつくることができ、最終製品に近いモックアップが製作できるほか、微細なデザインも再現できるこ

とから、フィギュアやゲームキャラクターの可視化、医療分野で研修用の人体各部の模型作製、あるいは店舗の看板など、多様なジャンルで活用されている。

その技術には、次のようなものがある。FFF方式(Fused Filament Fabrication)では、複数のノズルから異なる色のフィラメント(細いひも状のプラスチック)を押し出して混ぜ、多様な色の造形物をつくる。インクジェット方式では、粉末樹脂を噴霧した上に結合材を噴霧して固化させるが、着色した結合材を用いることでフルカ

ラーの造形物にする。また、複数の色のUV硬化化の液状樹脂を混合しながら噴霧することでフルカラーを実現するタイプのプリンターも登場している。

いずれの場合も、対応するソフトウェア、積層材などが同時に開発されている。最終製品の量産を視野に入れた技術革新は、さらに加速しそうだ。



知|財|T|O|Y|B|O|X

第22話:「交通信号機」

世界初の交通信号機は、米国で1914年に発明され、1923年に特許されています(米国特許第1475024号)。発明者は、オハイオ州クリーブランドに住む、アフリカ系アメリカ人のギャレット・モーガンです。当時の時代背景では、彼は十分な教育を受ける境遇になく、小学校を卒業しただけでしたが、発明の才能はすぐれており、他にもミシンの改良、ガスマスクなど数多くの発明を成し遂げています。この交通信号機は、「STOP」と表示された腕を取り付ける表示部を有し、ハンドルを回す毎に支柱に対して90度回動させることができました。現代の交通信号機とは形状が異なりますが、内部に電灯を取り付けていたほか、腕を上下に動かすことで、これが現代の黄色信号のような、通行許可方向を切り替える際の予告動作となり、現代の交通信号機が備える基礎的機能を備えていました。(弁理士 中川裕幸)

